

昭和・平成・令和と時代と共に 商品づくりから地域づくりへ

五十嵐 広司 (いがらし ひろし)

上士別をきずこう会 代表

中島 範子 (なかじま のりこ)

上士別をきずこう会 事務局長

農山漁村における地域の活性化や、個性的で魅力ある地域づくりの優れた活動を紹介するシリーズ。

今回は「わが村は美しく-北海道」運動第6回コンクールで奨励賞を受賞した団体、「上士別をきずこう会」代表の五十嵐広司さんと事務局長の中島範子さんにお話をお伺いしました。

《6次産業化活動で活力あふれるまちへ》

1954年に士別町、上士別村、多寄村、温根別村が合併して誕生した士別市は、北海道北部の中央に位置し、道立自然公園「天塩岳」をはじめとする山々や北海道第2の大河「天塩川」の流域を有する水と緑豊かな田園都市です。

その市の東にある上士別地域で、過疎の波と厳しくなる農業情勢の中にあって、何とか地域生活に潤いを持たせまちの活性化を図ろうと、1985年に町内有志が集まり「上士別をきずこう会」が結成されました。当初の会員は56名で婦人部会、木いちご部会、AYUMI部会、ホテル部会、コスモス部会、フルール部会の6部会から構成され6次産業化へ向けた活動をスタートしました。



「上士別をきずこう会」のラインナップ商品



2代目の代表の五十嵐さん（左）、初代表の藤原一男さんの娘さんで事務局長の中島さん（右）

《士別市でも数少ない農産物加工場の役割》

当初は、空き住宅を利用した地元産のトマトジュース作りからはじまりました。2002年には、現在の農産物加工研究センターに活動の場を移し、商品開発を本格化させます。

トマト果汁100%のトマトジュース「ほたるの恋人トマトくん」は、上士別のさわやかな空気と、天塩川のきれいな水で育つ



上士別をきずこう会
農産物加工研究センター

た2種類のトマトをミックスして使用しています。トマトの甘みがぎゅぎゅつまった人気のロングセラー商品です。他にも、木いちご果汁や各種ジャム、米を加工した塩麴、食べる甘酒、しょうゆ糀、みそ、米を使用したパン、ナンバンによる三升漬など各部会でさまざまな商品を開発しています。

当会の農産物加工研究センターは、会員になれば町民のみならず士別市在住の市民が製造販売できる、士別市でも数少ない農産物加工場で6次産業化の発展の場となっています。

今年で38年目を迎える「上士別をきずこう会」は、トマトジュース部会、麴部会、菓子部会、木いちご部会の4部会になりましたが、会員数は60名と当初よりも増えています。最近では、若い新規就農者のメンバーも増えはじめ新しいアイデアが出ることで、会員内でも相乗効果が生まれ活動にも活気が出ています。最後に五十嵐さんは、「これだけ長く続いているのは、無理をしないで地道に活動してきたからです」と思いを語ってくれました。

※ 当協会ホームページ、開発調査総合研究所・調査研究報告書から「わが村は美しく-北海道」運動第1～9回受賞団体の活動概要をまとめた冊子をご覧ください。